

こうかい ひこうかい べつ
公開・非公開の別

■ 公開 □ 部分公開
□ 非公開

第8回浜松市外国人市民共生審議会会議録

- 開催日時 令和4年5月27日(金) 午後3時00分から午後4時30分まで
- 開催場所 浜松市役所本館5階 庁議室 (併用：オンライン会議システム ZOOM)
- 出席状況
委員 シム キュマン (韓国)
鈴木 エバ (フィリピン)
妹尾 圭持 (知識経験者)
孫 玉傑 (中国)
丹野 清人 (学識経験者)
バンバン ハリアント (インドネシア)
ファム トウイ フォン (ベトナム)
事務局 国際課 課長 鈴木 三男
国際課 課長補佐 加藤 智春
国際課 主任 石黒 雄資
- 傍聴者 0人 (一般：0人、記者：0人)
- 議事内容 (1) 第3次浜松市多文化共生都市ビジョン (素案) について
(2) 審議会の提言内容について
- 会議録作成者 国際課 主任 石黒 雄資
- 記録の方法 発言者の要点記録
録音の有無 有 **無**

8 会議記録

(1) 開会・挨拶

《国際課長挨拶》

(2) 第3次浜松市多文化共生都市ビジョン（素案）について

《事務局：資料に基づき、第3次浜松市多文化共生都市ビジョン（素案）について説明》

(妹尾委員)

- ・ バディ制度は他市でやっている取組か、浜松市独自のものか。

(事務局)

- ・ JICA がセミナーを開催したり、愛知県高浜市で行われていたりする。

(妹尾委員)

- ・ 人と人の相性もあるが、おもしろいと思う。

(シム委員)

- ・ 外国籍の子どもの大学への進学率や就職先の情報があれば知りたい。

(丹野委員長)

- ・ 卒業後にどうなっているのかは実はわからない。高校に問い合わせるのが精一杯ではないか。この場では難しいと思うので、調べられる範囲で調べておいてほしい。

(事務局)

- ・ 市としては中学校卒業後の進路の情報は把握しているが、高校卒業後となると把握は難しい。

(鈴木委員)

- ・ 最近では私立高校に進学するし、その後、大学や専門学校に行くことも夢になっているのではないか。
- ・ 浜松市の日本語学習教室では、高校進学の情報も教えてくれるところがある。状況は変わってきているので、もっと取り組んでほしい。

(丹野委員長)

- ・ ただ言葉を教えるだけでなく、いろいろな情報を伝えて選択肢を広げてあげられると良い。

(バンバン委員)

- ・ 自治会加入率は35.6%とあるが、実態はもっと少ないと思う。
- ・ 現在の0-4歳の人数は2018年から変わらないが、次の世代を育てるという点で教育は重要である。

(丹野委員長)

- 自治会加入率については、調査結果が高めに出ていると思う。アンケートに回答してくれる人は、意識が高い傾向にある。回答者の持ち家率も3割を超えるので、それも影響していると思う。
- 浜松に住んでいれば、子どもが将来を思い描ける取組をしていけると良い。

(事務局)

- 子どもの親がいろいろと判断できる材料を提供していくことや学校の中で子どもをしっかり支援することが大切である。

(孫委員)

- 外国人材の活躍促進について、私の知る限り、留学生の特に理系では大学で英語を使っている。しかし、専門的知識を持っていても、就職する際は結局日本語のコミュニケーション能力が求められる。留学生が日本語教育を受けられる支援が広がると良い。

(フォン委員)

- 健康保険や年金について加入率が増えている。年金に加入しないと永住権が得られないことも影響していると思う。
- ほとんどのベトナム人は、日本に長期滞在したいと思っている。

(鈴木委員)

- ライフステージについて考える機会が必要である。どのように取り組んでいくのか。

(事務局)

- 出産、子育て、就学、就労、老後など各ライフステージに対しては、市のいろいろな課がそれぞれ場面で関わっている。まずは各課のやっている内容を外国人市民に届けることが大事である。多言語情報提供指針も策定したので充実させていきたい。

(3) 審議会の提言内容について

《事務局：資料に基づき、審議会の提言内容について説明》

(孫委員)

- 青少年については、不登校の問題もある。高校生の場合、どこに相談すればよいか。

(事務局)

- 義務教育年齢への支援では市の教育委員会でやっているが、中学卒業後は行政の支援が急に手薄くなってしまうのは課題である。

(丹野委員長)

- ・ 外国人だけでなく、日本人も同様である。

(フォン委員)

- ・ 市立高校では教育委員会が中に入って対応しているようなので相談すると良い。通訳の支援もある。

(鈴木委員)

- ・ 高校の進学について、学力が足りずに入試で不合格になった子に対して勉強や日本語学習ができる場はないか。

(事務局)

- ・ 中学校の勉強が不十分なままに卒業した人を対象に、中学校の勉強や日本語学習ができる県立の夜間中学校が来年4月に磐田市に開校する。生徒募集は7月の1週間程度、選考は8月である。

(丹野委員長)

- ・ 職業訓練校も選択肢となるのではないかと。学ぶ内容によって通学する期間が違うが、学費が安く、就職率がいい。ただし、入学には、日本語の会話ができることが必要である。

(シム委員)

- ・ 将来のためにやろうとしている人に対してはサポートすることが大事だと思うが、どこまでサポートするのか。水を飲む場所までは案内できるが、水を飲むのは結局自分である。

(丹野委員長)

- ・ 最終的には本人のモチベーション次第であるが、水を飲みたくなるように仕向けるしかない。

(シム委員)

- ・ 就職のためにはN2レベル以上の日本語能力が必要である。日本語能力試験などの受験料の補助があるとモチベーションになる。

(丹野委員長)

- ・ 一定の努力をしたい人にインセンティブを与えるのは1つの考え方である。

9 事務局からの連絡事項

10 閉会